



**京セラ株式会社 2022年3月期 通期 決算説明会**  
(2022年4月28日開催)

代表取締役社長 谷本 秀夫 スピーチ

<1. (中表紙) 2022年3月期 決算概要>

<2. 2022年3月期 決算概要(1)>

当期の売上高は前期に比べ20%増加の1兆8,389億円となり、3期ぶりに過去最高を更新しました。営業利益は2.1倍の大幅増となる1,489億円、税引前利益は69%増加の1,989億円、当期利益は65%増加の1,484億円となりました。

なお、平均為替レートは、対米ドルは前期に比べ6円円安の112円、対ユーロは7円円安の131円となり、これにより売上高は約680億円、税引前利益は約200億円押し上げられました。

<3. 2022年3月期 決算概要(2)>

設備投資額や減価償却費、研究開発費については、需要が好調な部品の増産や新製品開発に積極的に取り組んだことから、それぞれ増加しました。

<4. 2022年3月期 サマリー>

当期の業績サマリーです。

売上高は、事業環境の改善に加え、5Gや半導体関連市場向け部品に対するこれまでの増産投資が寄与し、過去最高を更新しました。

税引前利益率については、半導体や原材料の供給不足及び価格の高騰などの影響はあったものの、増収及び生産性の改善により、2桁に向上させることができました。

<5. 2022年3月期 事業セグメント別売上高>

こちらのスライドはセグメント別の売上高です。

当期は、全てのセグメントで約20%の増収となりました。

<6. 2022年3月期 事業セグメント別利益>

利益についても全セグメントで大幅に増加し、「コアコンポーネント」及び「電子部品」については2桁の利益率へ向上しました。

続いて、各セグメントの業績についてご説明します。

## <7. 2022年3月期 事業セグメント別業績 (1) コアコンポーネント>

上段のグラフは、コロナ禍が本格化する前の2020年3月期以降の通期売上高及び利益の推移です。下段の増減要因は、当期と前期2021年3月期の比較です。

まず、「コアコンポーネント」です。

産業・車載用部品事業において、半導体製造装置用ファインセラミック部品の需要が増加したことに加え、半導体関連部品事業において5Gなどの情報通信や自動車関連市場向けにセラミックパッケージ及び有機基板の需要が増加したことにより増収となりました。

利益は、積極的な設備投資による高付加価値製品の増収を主因に前期比2倍となり、利益率は12%へ向上しました。

## <8. 2022年3月期 事業セグメント別業績 (2) 電子部品>

続いて「電子部品」です。

産業機器及び自動車関連市場などの回復に加え、5G及び半導体関連市場での需要増により、小型の高容量コンデンサや水晶部品などの売上が増加しました。

利益は、高付加価値製品の増収に加え、生産性の改善などにより前期比2.1倍となり、利益率は14%へ向上しました。

## <9. 2022年3月期 事業セグメント別業績 (3) ソリューション>

最後に「ソリューション」です。

機械工具事業において、切削工具及び空圧・電動工具の売上が増加したことに加え、ドキュメントソリューション事業において、機器及び消耗品の販売が回復したことにより増収となりました。

利益は、増収に加え、前期に計上したスマートエネルギー事業における減損損失約115億円の影響が無くなったことから、前期に比べ83%増加し、利益率は7%へ向上しました。

以上が当期の決算概要です。続いて、2023年3月期業績予想についてご説明します。

## <10. (中表紙) 2023年3月期 業績予想>

### <11. 2023年3月期 業績予想 (1) >

今期は前期に続き、2期連続の増収増益を予想しています。

不安定な世界情勢に加え、半導体や原材料の不足及び価格の高騰、新型コロナウイルス感染症再拡大の懸念など、先行き不透明感はあるものの、5Gや半導体関連部品の需要継続が見込まれることから、この事業機会を着実に捉え、中期目標として掲げてきた売上高2兆円の達成を目指します。

#### <12. 2023年3月期 業績予想（2）>

設備投資、減価償却費、研究開発費については、今期も引き続き成長に向けた積極的な投資を予定していることから、それぞれ大幅に増加する計画です。

#### <13. 2023年3月期 事業セグメント別売上高予想>

セグメント別の売上高です。いずれのセグメントも増収を見込んでいます。

#### <14. 2023年3月期 事業セグメント別利益予想>

利益についても、増収を主因に全セグメントで増加する見込みです。

#### <15. 2023年3月期業績予想達成に向けた主な取り組み>

今期の業績予想達成に向けた主な取り組みとして、2点ご説明します。

1点目は、5G及び半導体関連市場向け部品の生産能力拡大です。

今期も「コアコンポーネント」や「電子部品」において、半導体製造装置用ファインセラミック部品など、こちらに記載の部品を中心に、増産のための積極的な設備投資を行います。

2点目は、ソリューションセグメントの売上拡大です。

機械工具やオフィス向けプリンターなどの拡販に加え、産業用インクジェットプリンターの販売を開始する予定です。

以上が今期の業績予想に関するご説明です。

続いて、中長期的な成長に向けた取り組みについてご説明します。

#### <16. 中長期の業績目標>

売上高2兆円の次の目標である3兆円に向けて、当社は引き続き、積極的な設備投資と新規事業の開発に取り組みます。

#### <17. 中長期的な成長に向けた主な取り組み（1）高需要部品に対する増産投資の継続>

取り組みの1点目は、高需要部品の増産に向けた設備投資の継続です。

足元は不透明な事業環境にあるものの、5Gの本格始動や一層のデジタル化の進展に伴い、半導体関連市場向け部品などの需要は中長期的に増加するものと予想されます。

当社は、この事業機会をさらなる成長の飛躍につなげるべく、生産拠点の拡充を進めており、今期はKyocera AVX Components Corporationタイの新工場及び鹿児島国分工場の新棟が稼働を開始する予定です。

また、来期にも国内外での工場の拡張を計画しています。  
ベトナム工場に加え、鹿児島川内工場においては国内最大規模となる新棟を建設することを決定しました。

#### <18. 中長期的な成長に向けた主な取り組み（2）新規事業の開発促進>

取り組みの2点目は新規事業の開発促進です。

当社は、売上高3兆円達成時には新規事業関連で約2,500億円の売上を目指しています。GaN 応用デバイス事業については用途拡大が進んでおり、今期も新製品の投入が見込まれます。ロボティクス事業やデジタル捺染機については下期より事業開始を見込んでいます。これらの事業の早期売上貢献とさらなる新規事業の創出に向けた開発に引き続き努めます。

#### <19. 株主還元>

最後に、株主還元についてご説明します。

2022年3月期の年間配当金は、業績及び配当方針に鑑み、直近の配当予想から変更無く、1株当たり180円とさせていただきます。

また、今期の年間配当金は、2022年3月期の180円に比べ20円増配の200円を予想しています。

世界経済の見通しは依然不透明ではあるものの、本日ご説明しました、継続的な事業投資による業績向上を通じ、株主還元についても更なる充実化を目指してまいります。

以上

#### **将来事象に関する注意事項**

当資料には、将来の事象についての2022年3月期通期決算説明会開催日（2022年4月28日開催）時点における当社グループの期待、見積り及び予測に基づく記述が含まれています。これらの将来の事象についての記述には、既知及び未知のリスク、不確実な要因並びにその他の要因が内包されており、当社グループの将来における実際の財政状態及び活動状況が、当該将来の事象についての記述によって明示または黙示されているところと大きく異なる場合があります。詳細は、当社ホームページに掲載の「将来の見通しに関する記述等について」をご参照ください（<https://www.kyocera.co.jp/ir/disclaimer.html>）。